

+.....+

【ケアプロ通信vol.109】

10月度ニュース:在宅治験サービスを開始しました！

+.....+

いつも大変お世話になっております。
ケアプロ広報担当です。

秋の空気が少しずつ冬へと移り変わると共に
街中もお化け一色に染まってきていますね。

日本でもすっかり定着したハロウィン。
仮装(コスプレ)、お菓子、カボチャお化けなどが思い浮かびます。

この時期、お化けの印象が強くなるカボチャですが、
免疫力向上を始め、冷え性や肩こり予防、貧血予防、老化予防、
また、美肌効果、便秘、むくみ改善などの効果が得られるスーパーフードです。

健康維持の一つとして、お祭りを楽しみながら、サラダやスープ、グラタン、
コロッケなど、カボチャ料理を堪能してはいかがでしょうか。

季節の変わり目、体調にはくれぐれもお気をつけください。

それでは10月度のニュースをお届けいたします。

+.....**I N D E X**.....+

【1】代表 川添高志

- 1)10/23 中高生・大学生の講演をします

【2】予防医療事業部

- 1)在宅治験サービスを開始しました！
- 2)在宅治験について紹介されました

【3】在宅医療事業部

- 1)足立区の社会福祉協議会で転倒の勉強会をしました！
- 2)中野STのセラピストが足立STで交換留職をしました！

【4】交通医療事業部

- 1)とある病院での4科の通院支援(ドコケア事例)
 - 2)多様な救護経験を持つサッカーナース
- +.....+
-

+.....代表 川添 高志からのメッセージ.....+

1)10/23 中高生・大学生の講演をします

アショカ・ジャパンと熊本県立大 国際教育交流センターの共催、
肥後銀行の協賛で、中高生や大学生を主な対象に、
「Journey of Innovation-社会起業家の人生を追体験する90分-」
と題した講演をします。

私は、2013年3月4日にアショカフェローに選出されました。
アショカは、1980 年にビル・ドレイトン氏が設立した
ソーシャル・アントレプレナーを支援する団体です。
アメリカ・ワシントン DC を本部とし、世界各地に支部を展開しています。

これまでに世界各地でアショカ・フェローが選出されており、
グラミン銀行を創設し、ノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス氏、
Wikipedia の創業者ジミー・ウェルズ氏などがいます。

アショカでは、今までの仕組みを根本から変える
「システムズ・チェンジ」を大切にしています。

世の中のためになるね、といわれることでも、
システムズ・チェンジになっていないことや属人的なものは
アショカフェローになりません。
アショカ本部のAさんは、そのことを確かめるために来日しました。

今回、中高生・大学生に講演し、
固定概念にとらわれず、自らの興味に素直になり、
物事を追求していくことの大切さを伝えたいと思います。

詳細は[こちら](#)

+……………予防医療事業部長 鈴木 沙由梨からのメッセージ……………+

1) 在宅治験サービスを開始しました！

10月1日より、訪問看護師による、在宅での治験サービスを開始しました。
また、サービスを開始するにあたり、在宅治験にも対応可能な訪問看護ステーション
「つながりをもっと。訪問看護ステーション」を開設いたしました。

ケアプロ単体でのプレスリリースと、
さらに3Hメディソリューション株式会社様×ケアプロ共同でのプレスリリースも出しました。
※詳細は[こちら](#) 共同リリースは[こちら](#)

これまでの治験は、治験参加者が医療機関へ通院し、対面で行うことが一般的でした。
在宅を活用した治験により、通院が容易ではない小児や難病、がん、認知症などの
治験が加速し、創薬が進み、患者のQOL(生活の質)の向上に貢献することが可能となります。

ケアプロでは検体測定室ガイドラインを厚生労働省とともに制定した実績や、
訪問看護師の教育プログラムを作成した実績があり、既存の枠組みにとらわれない
新たな仕組みを構築することを得意としております。

在宅治験も同様に、リーディングカンパニーとなることを目指して活動して参ります。

2) 在宅治験について紹介されました

在宅治験という既存の枠組みに囚われないサービスに注目いただき、
問い合わせを多数いただきました。

日刊薬業様、時事通信社様でご紹介もいただきました。
是非こちらもチェックしてみてください。

日刊薬業↓

<https://nk.jiho.jp/article/165186>

※全文閲覧には会員登録が必要です

時事通信社↓

<https://www.jiji.com/jc/article?k=000000100.000013827&g=prt>

▼写真は、「つながりをもっと。訪問看護ステーション」担当ナースの藤田



+…………在宅医療事業部長 金坂 宇将からのメッセージ……………+

1)足立区の社会福祉協議会で転倒の勉強会をしました！

足立ステーションの理学療法士2名が、足立区社会福祉協議会から依頼をいただき「転倒」をテーマに勉強会をさせていただきました！

転倒はADLを低下させる大きな要因になるため、予防が大切ですが、在宅の現場では、目が届かない環境になりやすく、転倒のリスクが高まるという背景があります。

そういった中で、日頃から利用者様の生活を支えてくださっている介護職の方々が、転倒のメカニズムを理解して、いかに予防策を講じられるかも、在宅療養を継続する上で重要になります。

ケアプロでは、一人でも多くの方の私らしいいき方を支えるために、介護職の方々と連携し、ケアを提供していきます！



2)中野STのセラピストが足立STで交換留職をしました！

中野ステーションのセラピストが足立ステーションで交換留職しました！

7月8月と、中野ステーションにセラピストが増えましたので、セラピストの多い、足立ステーションでの交換留職を行いました。

ケアプロでは、複数ステーションある強み、それぞれの特色を活かし、経験を広げるために、合同の勉強会や交流の機会を設けています。

利用者様だけでなく、スタッフそれぞれも、私らしいいき方を実現できるような組織創りをビジョンに日々取り組んでいます！



+…………交通医療事業部長 川添 高志からのメッセージ…………+

1)とある病院での4科の通院支援(ドコケア事例)

80代の独居の方が、外科手術の退院後に、初めて通院することになりました。

タクシーを利用したとしても、病院玄関からは一人です。

そのため、4科の外来を一人で回るのは無理だと思われて、ドコケアの付き添いを利用されました。

遊園地で4つのアトラクションを回るのとは異なり、気持ちが重くなることもあります。

実際、待ち時間が長く、ストレスもありましたが、カフェに立ち寄り、色々お話することで、気持ちが落ち着き、最後は、「とても助かったよ！」と握手して終わったようです。

今回のことを病院関係者の皆様にフィードバックさせていただき、安楽な通院支援について、今後も連携させていただくことになりました。病院関係者の皆さんも熱心に考えてくださり心強いです。

※[ドコケア](#)

2)多様な救護経験を持つサッカーナース

お陰様で、サッカーナースの登録が増えています。医療介護人材不足と言われる中ですが、供給ニーズが大きく、スポーツやイベントを応援したいという看護師が多いです。

サッカーに限らず、多様な救護経験を持つ看護師がいるため、サッカーナースの価値を可視化し、様々なスポーツのサポートをしていきます。



※サッカーナースの[HP](#)